

令和元年度 授業改善推進プラン

6年

	児童の実態	学習指導の課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	具体目標	3月 成果と課題
国語	○物語文を読むことは好きだが、深い心情や幅広い情景描写まで読み取ることができない児童がいる。 ○作文が苦手な児童が多く、自分の気持ちを表現したり、豊かに表現したりできないことがある。	○登場人物の心情や情景描写に基づいて物語を読みとる手だてを指導していく必要がある。 ○日頃より語彙数を増やすための時間を確保したり、言葉や文字で気持ち表現したりする活動を増やすことが必要である。	○言葉に着目させたり、対話等の活動を授業に取り入れたりして、登場人物の心情や情景描写を児童が読み深めていけるようにする。 ○ <u>随筆の学習から文章の構成や、表現方法を知り、書くことへの抵抗感を減らす。辞典の活用を促したり、読書に親しませたりして、語彙や慣用語を習得させる。</u>	○学習後に、感想や話の続きを書いたり、説明文にまとめたりする活動を通して、一層の深化を図る。 ○読書に親しませ、語彙や慣用語を習得させる。	○児童の80%が登場人物の心情や情景描写について自分の考えをノートに書いたり、対話、話し合い活動を通して自分の考えを深めたりすることができる。 ○児童の80%が相手を意識して、正しく伝わる文を書くとともに、自分の考えを上手に表現することができる。	
社会	○歴史学習に対する意欲の高い児童と低い児童の差が大きい。 ○資料の読み取りが不十分で、それらに基づいた学習のまとめができない児童がいる。	○学習したことを社会的思考と結びつけながら、自分の考えをとして表現する力をつけさせることが必要である。 ○資料や地図などを活用し、調べる力を定着させるための時間確保が不十分だった。	○学習のまとめとして調べ学習を設定し、歴史的事象について考える力や、調べたこと、考えたことを表現する力を高めていけるようにする。 ○資料の読み取りが上手な児童の意見を聞いたり、全体で交流をする。そして自分の意見を書く時間を確保する。	○グループでの活動や対話活動を適宜取り入れ、まとめ方についてのアドバイスや資料の読み取りについての技能を相互に高め合えるようにする。	○児童の80%が、資料を効果的に生かしながら自分の考えを表現した新聞づくりなどの活動を通して学習のまとめをすることができる。	
算数	○計算、作図の技能は定着してきたが、位取りや単位換算を正確にできない児童がいる。 ○文章問題の文意を捉えることができるようになってきたが、問題によっては、思い込みで解こうとしてしまう児童がいる。また、既習事項を生かして課題解決に取り組むことができない児童がいる。	○日常的に既習事項の復習を取り入れながら学習をしていく必要がある。 ○文章題はよく読み、何を聞かれているかということを確認させながら指導する必要がある。	○導入場面で復習を取り入れ、既習事項を確認する。また、繰り返し計算問題に取り組む機会を増やすことで、習熟を図り確かな技能を身に付けさせる。 ○問題文で大切な語句にアンダーラインを引いたり、数直線などを使って立式したりし、解答するように指導する。繰り返し問題に取り組むことで、演	○ドリルやプリントなどで、位取りや平易な換算の問題を数多く課題として出し、一層の習熟を図る。 ○図や数直線を使うことにより、問題文のイメージを確かにさせる。問題づくりを課題として、文章問題における問題場面の一層の理解を図る。	○児童の80%が正しく位取りや単位換算をすることができる。 ○児童の80%が、文章問題の、文意を正しく理解し、演算決定を正確に行い、その理由を発表できる。 ○児童の90%が友達と考え方の交流をすることで、多様な解決方法に気付くことができる。	
理科	○積極的に実験や発言を行う児童が多いが、自然の変化について事象と結論の因果関係を結びつけて考えることができない児童がいる。	○実験や観察の方法や結果、自分の考えを言葉で表現する力をつけることが必要である。	○観察や実験の際には、準備・方法・仮説(予想)・結果・考察・まとめなど、考える過程が分かるようなノート指導を継続的に行う。 ○課題を正しく理解し、仮説を立てた上で観察や実験を行うことで、事象と結論を整理して考えるように指導する。	○授業の終わりには、他の児童が行った観察・実験方法を紹介し合うなどする。また、実験結果から分かったことをまとめられるようにする。	○児童の80%が実験や観察前に仮説を立てることができる。 ○児童の80%が実験の結果から考察する学習の流れを理解し、根拠をもってまとめることができる。	
家庭	○全体的に意欲的に取り組んでいるが、生活の中での実践に発展させる力が弱い。 ○裁縫や調理などの技能の個人差が大きい。	○基本的な裁縫や調理などの技能を日常生活でも活用できるよう技能面を育成していく必要がある。	○自分なりのアイデアで試作などをし、学習課題をきちんと把握させる。その解決のために積極的に調べたり技能の習得に努めたりできるようにする。	○教材を複数用意したり多様な学習方法を取り入れたりして、個々に対応する。身近な材料を使って生活に生かせる物を作らせる。	○児童の90%が基礎的な技能を身に付け、学習したことを生活の中に生かそうとすることができる。	
体育	○ボール運動は興味をもって取り組むが、全体を見通して運動できる児童が少ない。 ○柔軟性や投力が低い。 ○技術や運動能力の個人差がある。	○グループでの教えあいの場を設けることや、教材の工夫が必要である。	○準備運動の中に、体ほぐしの運動や体力を高める運動を取り入れる。場作りを細分化し習得し、向上を目指す。 ○ <u>学習カードに自己の目標値を設定させ、段階に応じて明確な視点を提示する。</u>	○身の回りにあるものを補助具として活用し、日頃から体ほぐしや体力・持久力を高められるようにする。意欲の継続や技術の習得につながるように教材を用いる。	○ボール運動だけでなくいろいろな運動の楽しさを理解し、取り組むことができる。 ○80%の児童が体の柔軟性、持久力を高めることができる。 ○児童の95%以上が安全にけがなく行えるように体育的環境を整えていく。	